

資 料

朝鮮産コキンメフクロフ（新稱）の一標本に就いて

黒 田 長 禮

東京市赤坂區福吉町

最近朝鮮平安南道安州農學校の元洪九氏から同半島にて氏が採集した數點の鳥類を予の許に送附せられ鑑定を乞はれた。其内次に記す一點は同半島鳥界に新追加せらるべき種類である。因つて其記載を掲げて報告せんとする。

Athene noctua plumipes SWINHOE.

和名 コキンメフクロフ（新稱）

記 載 體の背面は淡き帶灰褐色、頭より後頸には明なる軟皮白色の縦斑あり。翁の上部より下頸側に達する白色及軟皮白色の大斑輪狀をなして存在す。間肩部は一樣なり。此部分の白斑は凡べて褐色羽に被覆せらる。然し肩羽にありては卵形の白斑稍々明瞭に見ゆ。雨覆羽は背と同色なるも、顯著なる卵形の白斑あり。初列雨覆は汚褐色にして、暗黄褐色の横斑あり。風切羽は褐色にして羽端灰白色を呈し、各羽には白斑及軟皮白色斑あり。上尾筒は背より淡色にして各羽に白斑あり。尾も同色にして擬白色(軟皮色を帶ぶ)の四帶あり。而して先端の一帯は外瓣にのみ存す。眼先き白く羽軸 黑色なり。眉斑白色にして短かきも幅廣し。耳羽は帶黄褐色に帶白色の軸線あり。眼の下部に白斑あり。頬及喉は白色にして三角形の大斑をなして耳羽の下部に達す。前頸下部は白く喉の白色との間に帶褐赤色の帶あり、白色を混す。體の下面は帶軟皮白色にして腹の中部と下尾筒は白色、他は褐色の縦斑あり。胸及體側にありて殊に著し。脚及趾の末端迄密に白毛を以て覆はれ、腿及跗蹠の外方のみ淡軟皮色を帶ぶ。下雨覆及腋羽は白色にして下部大雨覆の基部にのみ灰褐色斑あり。風切羽の裏面も灰褐色を呈し、内瓣に四乃至五個の白色の大なる横帶あり。外瓣には小形或は不判明なる白斑あり。

嘴は乾標本(採集後一ヶ月目に檢す)によれば黄色にして下嘴の基部暗色、蠟膜も亦暗色を呈す。趾の爪は鋭く黑色なり。

採 集 地 朝鮮平安南道安州。

採 集 年 月 1931 年 11 月 10 日。

測定 (性) 雌 翼 154; 尾 82; 跗蹠 28; 嘴峰蠟膜共 21.5; 同蠟膜を除く 15.5 mm。
以上が此珍しいコキンメフクロフの記載である。

予が嘗つて調査した松平頼孝子標本(北京産)の測定とスッキノーの基型標本及ハータートの測定とを比較して見ると次の様になる。(単位 mm. 括弧内 inch.)

産 地	全 長	翼	尾	跗 蹠	嘴峰蠟膜を除く	測 定 者
北京附近	203 (8)	155 (6.1)	86 (3.4)	29 (1.15)	—	SWINHOF
北 京	—	158	78	29	15	黒 田
—	—	156	—	—	—	HARTERT
—	—	157	—	—	—	HARTERT

以上の通りで今回調査した朝鮮の標本と體の大きさにありては全く一致することが知られる。只今回のものが確實な雌であるとする少し小形である様に見えるが多分雄の誤りではなからうかと思ふ。

分 布 北は西部及南部滿洲, 直隸, 山東, 山西, 陝西南部にして今回朝鮮より發見せられたのは誠に面白いことと思ふ。

採集者元洪九氏に對し茲に深謝の意を表す。

奉天附近の鳥類目録 (1)

西 岡 勘 一

滿洲教育專門學校 研究生

奉天附近にて採集せる鳥類中鑑定確實なるもののみを一括して本目録に收む。元より極めて短日月の採集にかかるものなれば其の數甚だ少く該地方鳥類の一半を示すものに他ならず。而かも之を公にするの所以は滿洲諸地方に於ける採集目録と共に滿洲に於ける鳥類の分布竝に渡りの道程の考察上必須なる資料の一たるを信すればなり。